

# 高収益品目への転換に向けたアボカドの産地化

品目転換

熱帯果樹

耕作放棄地対策

- 取組者：松山市農業指導センター
  - 所在地：愛媛県松山市
  - 問合せ先：松山市農林水産部農業指導センター（089-976-1199）
- 活用した国の事業（予定等を含む）：無し（調査時点）



## 【取組概要】

・松山市は伊予柑の産地だが、**価格が低迷**し、それに伴い**農家の所得も低下**していたため、伊予柑を補完する高収益品目を振興する必要があった。

・H20からアボカドの産地づくりに着手。アボカドは、**みかん生産と兼業が可能**で、植付けに要する面積が大きい（5m×5m等）ため増加する**耕作放棄地の対策にもなる**と検討。

・松山市が**栽培展示ほ場**（露地・施設）を設置・栽培実証を行うとともに、**農薬登録試験や苗木の育成・分譲**を実施。

・**生産の難易度が高い**が、だからこそ挑戦する生産者が多く、苗木支援と相まって**栽培面積は**目標の10haを超える**15haまで拡大**。

・アボカドの**労働時間はかんきつの1/10程度**であり、**高単価**で販売可能であるため、生産が安定すればメリットが大きい。



苗木の育成



定植2年目のアボカド  
（センターで実証）



- ・苗木は要望調査により必要数を把握。平均5～7年（早い人で4年）で収穫可能となる。
- ・日本では、冬の低温で樹が傷み、春に気温が上がることで樹が回復するサイクル。松山市では島しょ部や沿岸部が適地。

## 【苦勞】

露地栽培のため、**冬の低温・寒波**による花芽への影響や落葉・枯死、**夏の高湿・干ばつ**による日焼け等で生産が安定しない。

※収穫可能な生産者は約半数。

## 【工夫】

**冬はコモやシートによる防寒対策**、**夏は灌水**による対策をしているが、試行錯誤が必要な状況。

## 【苦勞】

園地条件が悪い場合、苗木が枯死。

## 【工夫】

センターが育成の苗木を低価格（800円/本、管理費程度）で分譲することで**導入のハードルを低減**。

★国産アボカドは、**完熟状態まで樹上で栽培**されるため、輸入品に比べて味に青みが無く、甘くて大きい。このため、量販店から引き合いが強く、**高単価で販売**される。

## 【今後の展望】

まずは、栽培面積を維持しつつ、**安定生産の技術の確立**を目指す。栽培技術に係る**他産地との連携**も視野に、取組を推進。